

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	佐賀市立本庄小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で授業実践と教師研究に取り組んだことで、児童の学びが高まる実践を探究する教師集団が育った。また、冊子「HONJO COMPASS」を作成した。これを基盤に継続した実践研究を進め、児童の姿で効果を検証していきたい。 ・児童が安心して通える学校環境づくりを推進してきたが、全児童の安心までには至らなかった。児童間の「褒める」「認める」取組を模索し、児童の自己肯定感、学習意欲、向上心の高まりへと誘う活動へと充実させていきたい。 ・挨拶・掃除に重点を置いた取組は、共に高め合う本庄っ子の育成に効果が見られた。校内にとどまらない取組となるよう、地域の方や保護者を巻き込み、更なる効果を模索していきたい。 ・校内研究の在り方や行事内容の見直しで業務改善が進んでいるが、目標達成には至っていない。学校マネジメントや分掌部の取組にも見直しの視点を広げ、より効率的な働き方ができる職場づくりを模索する必要がある。

2 学校教育目標	自ら学び(知)、共に高め合い(徳)、たくましく生きる(体) 本庄っ子の育成
----------	---------------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>本庄コミュニティスクールとして、地域・家庭との連携した教育環境を基盤にして、本校教育目標の達成に向け、重点目標を次の4点に定め、具体的な教育活動を組織的に推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「自ら学ぶ本庄っ子の育成」のため、「学び部」を組織し、「見取りと介入」に重点を置き、児童の学びに係る授業改善の実践研究と、教師の学びに係る教師研究の両面から両者の有機的、継続的な取組を追究、実践する。 ②「共に高め合う本庄っ子の育成」のため、「こころ部」を組織し、「ほめて伸ばす」に重点を置き、児童の互いに思いやる心を育てる取組を推進するとともに、全児童が安心して学校へ通える環境作りを推進する。 ③「共に高め合う本庄っ子の育成」のため、「安心部」を組織し、「挨拶・廊下歩行・スリッパ並べ」の場面に重点を置き、児童の体験的な活動を通して、児童が物事に対して自ら考え、他者の思いも尊重しながら判断、行動する自発性や自律性を伸ばす取組を推進する。 ④「たくましく生きる本庄っ子の育成」のため、「楽しみ部」を組織し、「体力」と「食生活」に重点を置き、体育科の授業や身体動かすイベントなどの取組や食育への取組を通して、運動を楽しみ、好む児童を育てるとともに、健康的にたくましく体をつくる児童を育てる。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	○児童を「見取る」、児童を「伸ばす」、児童に「気付かせる」を重点とした授業改善の実践研究の推進。	○毎月、「3分間チャレンジ」の取組を実施する。 ○児童を多面的・多角的に見取る時間を、学期に1回以上設ける。	「3分間チャレンジ」の取組(児童) ①標準化された問題(国語、算数の問題)を児童に3分間解説し、結果を点数化する。 ②個々の点数をグラフ化し、児童に返す。 ③児童の伸びを児童自身に振り返らせる。 「児童を多面的・多角的に見取る」時間(教師) ①「三層での見取り」を基準に児童の見取りを行い、伸びの推移等に関わる教職員や教科等部で確認する。 ②それぞれの層への次の手立てを考える。 ③①②のサイクルを毎学期回していく。	(主)研究主任 ・学力向上対策コーディネーター ・学び部員 (主)研究主任 ・学力向上対策コーディネーター ・学び部員
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動。 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実。 ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○道徳教育に関するアンケートで、肯定的評価をした教師90%以上 ○自分や友達の良いところを見つめる時間を各学級で実施した回数が、学期に1回以上 ○いじめやいじめの疑いがある行為の有無について、職員間で共通理解を行う場を、月1回以上実施 ○「いじめ防止等について、組織的な対応ができています」と回答する教師90%以上 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒80%以上	①全般的に、思いやりについて学ぶ場として人権集会・平和集会を実施する。 ②豊かな心を育む道徳科の授業づくりについて、全職員で道徳科の授業を参観し、学ぶ場を設ける。 ③ふれあい道徳を実施し、保護者や地域の方々へ本校の道徳教育への理解を促す。 ①いじめの定義やいじめ防止等のための取組等について、年度当初に全職員で確認する場を設ける。 ②毎月の「こころのアンケート」を実施し、いじめやいじめの疑いを早期に発知し、早期対応を図る。 ③毎学期はじめに佐賀市の「いじめゼロレインボー作戦」を実施する。 ④いじめの発知、認知に関するマニュアルをもとに、問題が発生したときの即時対応を行う。 ①学年、学級、委員会、クラブなど様々な集団活動の中で、児童一人一人ができるだけ多くの職員で見守り体制をつくる。 ②生徒指導協議会等で児童の情報を共有する場を月1回以上設け、個に応じて適切に指導し、支援が行えるようにする。 ③個々の目標ややりたい姿を常に意識させ、活動後や学期末に振り返らせ、個々の成長を価値付けすることで、児童自身が自分の良いところを実感できるようにする。	(主)道徳教育推進教師 (副)人権・同和教育担当者 ・こころ部員 (主)教育相談担当主任 (副)養護教諭 ・こころ部員 (主)特別活動主任 ・各学年主任 ・こころ部員 ・安心部員
●健康・体づくり	○児童にとって「居心地のいい学校」となるための教育活動。 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「友達に思いやりをもって接している」と回答した児童90%以上 ○「安心して学校に通うことができる」と回答する児童90%以上 ●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間中420分以上の児童生徒70%以上 ○運動が好きと答える児童90%以上 ●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ○給食の残食平均4%以下	①「こころのポスト」を設置し、適時、こころの状態を担任等へ伝えることができるようにすることで、児童が悩みや不安などを開示できる機会を増やし、学校生活に安心感を持てるように活用する。 ②不登校傾向の児童が学校で安心できる場として、「にじいろルーム(別室)」及び別室対応支援員を活用し、児童の心理的安全性を確保する。 ③ほめて伸ばす取組を学年の実態に合わせて学年単位で実施する。 ①児童の状況を把握するために、毎学期アンケートを実施する。 ②職員向けの体育科の授業づくりワークショップを年3回以上実施する。 ③委員会活動と結びつけたスポーツイベントを年2回以上実施する。 ④教師同士で体育科のワークシートや授業の進め方を共有し、児童の運動への意欲向上を図る。 ①生活習慣チェックシートを年2回行い、家庭に啓発する取組を行う。 ②フリー参観等で食育の授業を行う。 ③楽しみ部会を毎月開き、残食状況をデータで示し、食育の取組について話し合う。	(主)教育相談担当主任 ・こころ部員 (主)楽しみ部員 ・保健主事 ・体育部員 (主)栄養教諭 ・給食・食育担当者 ・保健主事 ・楽しみ部員
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○会議等のDX化と時間のマネジメント	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 ○勤務時間内において、自身の校務に取り組める時間が増えたと回答する教師70%以上	①毎週金曜日を定時退勤日と定め、18時までには全職員退勤を徹底する。 ②分掌事務を複数の職員でチームとして任せ、効率的な業務遂行、同僚性を発揮した業務改善を推進する。 ③年次休暇を取りやすいように、定期的に会議等を入れない放課後の時間を設ける。 ④職員会議毎に、時間外在校等時間の上限と年休取得目標について周知し、意識化を図る。 ①会議等の予定時間を事前に明示し、計時しながら進行を行うことで、参加者が時間を意識して臨むことができるようにする。 ②会議での協議、連絡(周知)を明確に分け、会議では協議のみを行うことを徹底し、連絡事項は、資料のデータ化や電子掲示板等による供覧を活用する。	(主)管理職 ・指導教諭 (主)管理職 ・指導教諭
●特別支援教育の充実	○合理的配慮の提供を意識した、個に応じた指導、支援	○配慮を要する児童へのよりよい支援の在り方や具体的な支援方法を模索し、提供することができたと回答する教師90%以上	①特別支援学級の授業参観、授業研究会を設け、教師個々が専門的知識や個に応じた指導、支援について理解を深める場とする。 ②個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成等も含め、定期的に、特別支援教育に関する情報交換会を行い、配慮を要する児童の特性や合理的配慮について協議し、支援方法を全体で共有する。	(主)特別支援教育コーディネーター ・特別支援学級担任 ・研究主任 ・こころ部員

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
◎志と誇りを高める教育	◎つながりの中で自分に自信をもつ児童の育成	◎自分の良いところや頑張っているところが言える児童70%以上	①教師が児童の良いところや頑張っているところを認め、具体的にほめることを意識する。 ②こころ部のほめて伸ばす取組や各学級の活動の中で個々の頑張りを、家庭と連絡や地域への情報発信の中で積極的に取り上げ、校内だけでなく、家庭や地域とのつながりの中で、身近な大人からほめてもらう機会をつくる。	(主)こころ部員 (副)学び部員
○自発性や自律性を伸ばす教育	○挨拶を自分からする児童90%以上 ○廊下を静かに歩いている児童80%以上 ○トイレのスリッパを並べている児童80%以上	○挨拶を自分からする児童90%以上 ○廊下を静かに歩いている児童80%以上 ○トイレのスリッパを並べている児童80%以上	①児童会活動(生活向上委員会の挨拶運動等)や全職員のカリキュラムマネジメントによる教育活動の実施を推進する。 ②廊下の看板や花台の設置等の環境整備や啓発動画によるモデルの提示など児童会活動の中で解決を試みることができる機会を設ける。 ③定期的な教師の現状観察より取組への称賛、指導を実施する。	・安心部員

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--